

科目名	総合日本語 6－8 A Integrated Japanese 6－8A		新座
担当者	和田 晃子 (Wada, Akiko)		
開講学期	春学期	単位数	1 単位

授業の目標

大学における学習,生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。

授業の内容

各学生の日本語力に配慮した形で,聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い,内容理解とともにディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につけることを目指す。

授業計画

1. 授業概要, 大学に必要な日本語力とは,
聴く・話す技術①-1 導入と資料理解
2. 聴く・話す技術①-2 発表①
3. 聴く・話す技術②-1 導入と資料理解
4. 聴く・話す技術①-3 フィードバックと修正
5. 聴く・話す技術①-4 発表②
6. 聴く・話す技術②-2 発表
7. 聴く・話す技術③-1 導入と資料理解
8. 聴く・話す技術②-3 フィードバックと修正
9. 聴く・話す技術 即興プレゼンテーション
10. 聴く・話す技術③-2 発表①
最終課題④-1 導入
11. 聴く・話す技術③-3 フィードバックと修正
最終課題④-2 準備
12. 聴く・話す技術③-4 発表②
13. 最終課題④-3 準備
14. 最終課題④-4 最終発表

授業時間外(予習・復習)の学習

毎回の授業で周知する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 40%,
課題の提出状況および内容 45%,
最終発表 15%

テキスト

特に指定しない。

参考文献

授業の際に適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

科目名	総合日本語 6－8 B Integrated Japanese 6－8B		新座
担当者	小森 由里 (Komori, Yuri), 三浦 綾乃 (Miura, Ayano)		
開講学期	春学期	単位数	1 単位

授業の目標

大学における学習,生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。

授業の内容

各学生の日本語力に配慮した形で,読む・書く活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い,読解力を高めるとともに,レポートや論文を書く際に必要な技能を身につけることを目指す。

授業計画

1. 授業概要, 大学に必要な日本語力とは
2. テーマ①-1 導入と共通資料の読解活動
3. テーマ①-2 書く技術①
4. テーマ①-3 分担読解とディスカッション
5. テーマ①-4 書く技術②
6. テーマ①-5 書く技術③とリアクションペーパーのフィードバック
7. テーマ①-6 ピア・エディティング活動とレジユメのフィードバック
8. テーマ②-1 導入と共通資料の読解活動
9. テーマ①-7 小レポートの自己評価と書き直し
10. テーマ②-2 書く技術①
11. テーマ②-3 分担読解とディスカッション
12. テーマ①-8 小レポートのフィードバック
テーマ②-4 書く技術②
13. テーマ②-5 書く技術③
14. テーマ①-9 小レポートの発表
テーマ②-6 レジユメとリアクションペーパーのフィードバック

授業時間外(予習・復習)の学習

毎回の授業で周知する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 40%,
課題の提出状況および内容 35%,
小レポート 25%

テキスト

近藤 安月子・丸山 千歌(2005)『上級日本語教科書 文化へのまなざし[テキスト]』東京大学出版会

参考文献

授業の際に適宜紹介する。準備学習・その他(HPなど)

科目名	総合日本語 6－8 C Integrated Japanese 6－8C		新座
担当者	斉藤 紀子 (Saito, Noriko)		
開講学期	秋学期	単位数	1 単位

授業の目標

大学における学習,生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。

授業の内容

各学生の日本語力に配慮した形で,聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い,内容理解とともにディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につけることを目指す。

授業計画

1. 授業概要, 大学で必要な日本語力とは,
聴く・話す技術①-1 導入と資料理解
2. 聴く・話す技術①-2 発表①
3. 聴く・話す技術②-1 導入と資料理解
4. 聴く・話す技術①-3 フィードバックと修正
5. 聴く・話す技術①-4 発表②
6. 聴く・話す技術②-2 発表
7. 聴く・話す技術③-1 導入と資料理解
8. 聴く・話す技術②-3 フィードバックと修正
9. 聴く・話す技術 即興プレゼンテーション
10. 聴く・話す技術③-2 発表
11. 聴く・話す技術③-3 フィードバックと修正
最終課題④-1 導入
12. 最終課題④-2 準備
13. 最終課題④-3 最終発表
14. 最終課題④-4 最終発表

授業時間外(予習・復習)の学習

毎回の授業で周知する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 40%,
課題の提出状況および内容 45%,
最終発表 15%

テキスト

特に指定しない。

参考文献

授業の際に適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

科目名	総合日本語 6－8 D Integrated Japanese 6－8D		新座
担当者	調整中 (TBD)		
開講学期	秋学期	単位数	1 単位

授業の目標

大学における学習,生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。

授業の内容

各学生の日本語力に配慮した形で,読む・書く活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い,読解力を高めるとともに,レポートや論文を書く際に必要な技能を身につけることを目指す。

授業計画

1. 授業概要, 大学で必要な日本語力とは
2. テーマ①-1 導入と共通資料の読解活動
3. テーマ①-2 書く技術①
4. テーマ①-3 分担読解とディスカッション
5. テーマ①-4 書く技術②
6. テーマ①-5 書く技術③とリアクションペーパーのフィードバック
7. テーマ①-6 ピア・エディティング活動とレジユメのフィードバック
8. テーマ②-1 導入と共通資料の読解活動
9. テーマ①-7 小レポートの自己評価と書き直し
10. テーマ②-2 書く技術①
11. テーマ②-3 分担読解とディスカッション
12. テーマ①-8 小レポートのフィードバック
テーマ②-4 書く技術②
13. テーマ②-5 書く技術③
14. テーマ①-9 小レポートの発表
テーマ②-6 レジユメとリアクションペのフィードバック

授業時間外(予習・復習)の学習

毎回の授業で周知する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 40%,
課題の提出状況および内容 35%,
小レポート 25%

テキスト

近藤 安月子・丸山 千歌(2005)『上級日本語教科書 文化へのまなざし[テキスト]』東京大学出版会

参考文献

授業の際に適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)